

1 節 伊那谷が一夜で消えた

1 伊那市天神山は火山か

伊那市高遠町の入り口に、天神山(806m、写真 1)があります。天神山の麓で、安山岩の礫が見つかりました。安山岩は火山岩です。天神山は火山なのでしょうか。

天神山南で工事現場の露頭(1982年当時、写真2)を観察した結果、天神山では三峰川の古い扇状地礫層の間に、安山岩質の凝灰角礫岩層が2層挟まれていました。だから、天神山は火山ではありません。



写真1 伊那市天神山

2 下伊那にはミソベタ層がある

伊那谷では、下伊那地方に「ミソベタ層」と呼ばれる火山泥流様の地層があり、古い扇状地の礫層に挟まれています。ミソベタ層の起源は、これまで岡谷～辰野町北方の古い時代の火山にあると考えられてきました。

天神山では、下から2番目の凝灰角礫岩層が下伊那のミソベタ層と同じものであることが分かりました。ミソベタ層は岡谷～辰野町北方地域から天神山を経て、下伊那地域へと約50kmの遠距離を流れ下ったのです。



▲写真2 天神山南の凝灰角礫岩層（ミソベタ層、1982年当時）

▼写真3 松川町鶴部のミソベタ層



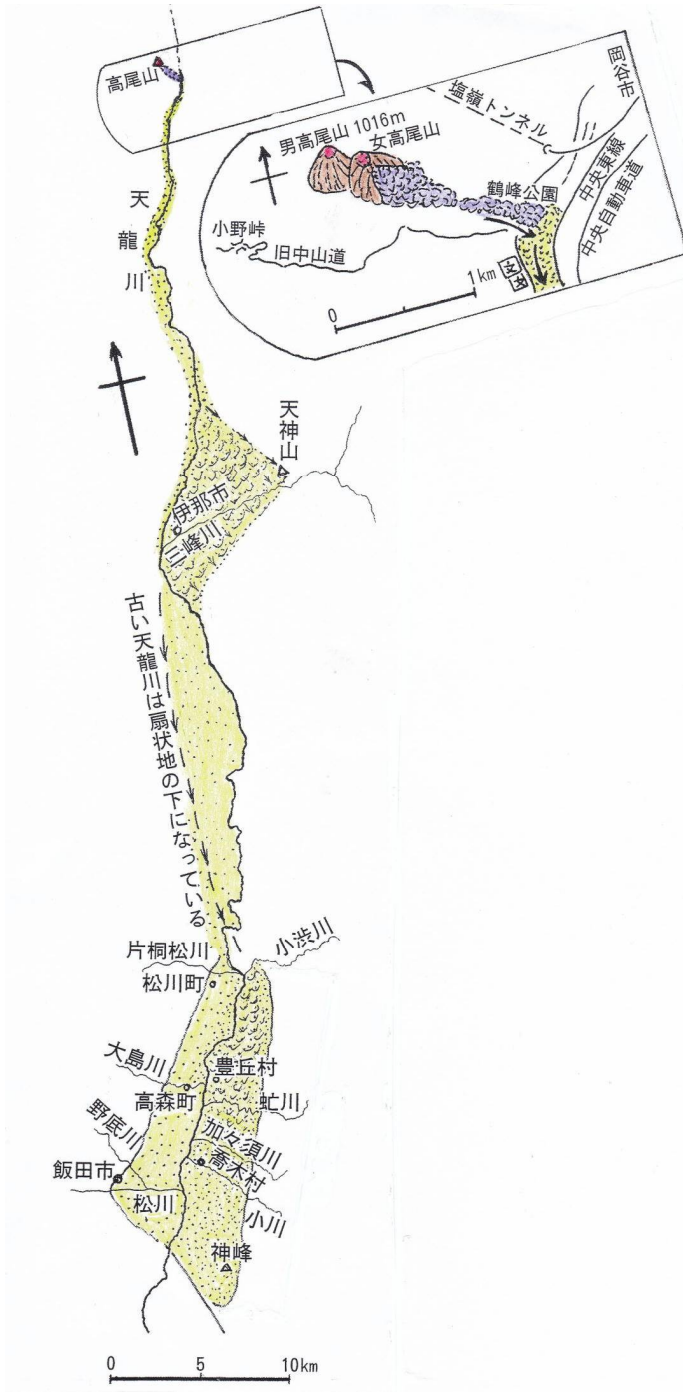
3 伊那谷は一夜にして消えた 52

2006年、下伊那の高森町の天龍川河床で、ミソベタ層の上に3mを越える巨大な安山岩の角礫岩片のブロック(流れ山)が発見されました。ミソベタ層は、火山の山体崩壊で岩屑なだれが天龍川に注ぎ、水を含んで火山泥流となって下伊那地域まで流れ下ったものなのです。

近年、ミソベタ層は岡谷市の高尾山の山体崩壊による火砕流に由来するとの見解も出されました(図1)。高尾山の山体崩壊が起源とする考えでは、ミソベタ層により伊那谷が消え去ったのは、今からおおよそ80万年前以降の出来事です。

当時の伊那谷は、まだ起伏の少ない地形でした。そのため、古い伊那谷はこの火山泥流によって埋め尽くされ、一夜にして消え去ったのです。

図1 伊那の谷を埋めつくした火砕流起源のミソベタ層(高尾山を起源とする考え方)
松島信幸, 伊那谷の自然, 第192号, p. 6,
図4を塗色して引用



【引用・参考文献】

- 松島信幸, 1995, 伊那谷の造地形史- 伊那谷の活断層と第四紀地質-, 飯田市美術博物館, p. 135.
- 松島信幸, 2017, 伊那谷が消える日って考えられますか, 伊那谷自然友の会報, 192, 2-7.
- 松島信幸・亀田武巳, 1986, 伊那谷が地図から消えた日, 伊那谷自然友の会報, 3, 8-10.
- 松島信幸・村松 武・小泉明裕, 天龍川の川底にミソベタ層- ミソベタ層はどのように流下したか-, 伊那谷 自然友の会報, 148, 10.
- 下平眞樹, 1983, 伊那谷の塩嶺累層と伊那層のミソベタ部層との関連について, 下伊那教育会自然研究紀要, 6, 67-80.
- 下平眞樹, 1988, 伊那谷を流下した大規模火山泥流- ミソベタ泥流を追って-, 上伊那教育, 78, 112-122.
- 山田哲雄・清水秀樹, 1960, 高遠西方の天神山の火山岩について, 信濃教育, 893, 93-96.

下平眞樹